

C-3 児童の生活構造の時代的変遷に関する研究 オフ報 週疎村住民のライフ

ヒストリーに関する検討

大妻女子大家政 ○大場奇夫 平井信義 于朋喜代子 波谷憲一 前川当子
八倉名和子 長坂陽雄 松本厚昭

目的 週疎地における都市化がどのように進行し、またそれが児童に及ぼす影響はいかにあるのかを明らかにするため、前年度に引き続き、住民の自己叙述による児童生活史の作成に着手する。

方法 秋田県下週疎地T及びM村の2ヶ村において、住民を対象に面接による自由対談式の実施した。期間は昭和59年11月及び60年3月に各5日間を要した。

質問項目は、主として「子ども時代の印象及び体験」についてを中心に、およそ20項目を用意した。

結果 今回は20名の住民からの回答を得た。面接の結果は今後とも累積的に収集活動をするためより一層精密な資料をつくってゆくための第一段階に相当する部分である。この時点で、生活上インパクトの大きい事項として注目しているのは、①豪雪・冷害・大干ばつへの被害、②農地解放、③米の減反政策のあおり、④出稼、⑤モータリゼーション、⑥燃料革命による暖房様式の変化、⑦TVの普及、などがある。なお現時点では表面化しているいくつかの事項を含めて、それらが年譜的整理に入ろうとしているところである。また面接において、子どもの遊ばせの側面、空間的側面の双方において量的にも減少傾向が強調されている。予想されたことではあるが、前述のインパクトとの関連において、週疎村に進行しつつある変遷の軌跡を突明していく必要だと再確認することができた。自給自足の生活へ大きくから、現金収入による生活への変容をベースにしたものが、子どもたちの生活と発達の内容が大きく変貌していく様子を実証する資料を得つつある。